

## カゼクサ (イネ科) の北斗市及び函館市における分布

北斗市 長谷 昭

### はじめに

道南においては、本州ではごく普通に生育している道内では稀な、あるいはほとんど報告がないイネ科植物が観察されることがあり、本誌でもしばしば取りあげられている。筆者が居住する北斗市に関しては、大野川の河川敷に群生するウシノシッペイ *Hemarthria sibirica* (Gandog.) Ohwi (五十嵐 2010、長谷 2022) と八郎沼公園に生育するチゴザサ *Isachne globosa* (Thunb.) Kuntze var. *globosa* (五十嵐 2017) がすでに本誌で紹介されている。また、外来植物であるが今まで見逃されていたコネズミガヤ *Muhlenbergia schreberi* J. F. Gmel. の分布も報告した (長谷 2023)。

さて、残暑が1段落した9月中旬、サケの遡上を確認に近くの戸切地川を訪れたとき、盛り土した河川敷で黒っぽい穂を持つイネ科植物を見つけ、確認したところカゼクサ *Eragrostis ferruginea* (Thunb.) P. Beauv. であった。本種については、函館市郊外で

の生育を本誌で報告した (長谷 2022) が、本稿では、この北斗市で確認したカゼクサについて、函館市での分布情報とともにまとめる。合わせて、北斗市に生育している道内では比較的稀と考えられている他のイネ科植物についても紹介する。

### カゼクサの同定と分布

図1は北斗市戸切地川河川敷で観察したカゼクサである。図2に同定のポイント部分の拡大を示した。本種は、大きな株を作る多年草であり、本州以南では堤防や路傍などに普通に生え、多くが群生するとされている (長田 1993、茨木 2016) が、当地では車道の轍の間に自然に出来た細長い緑地に、10mほどにわたってそれほど大きくはない株 (図1A) が点在していた。周辺の堤防等では本種を確認できなかった。道内にも分布する類縁種のニワホコリ *E. multicaulis* Steud. 及びオオニワホコリ *E. pilosa* (L.) P. Beauv. とは、疎らにつける

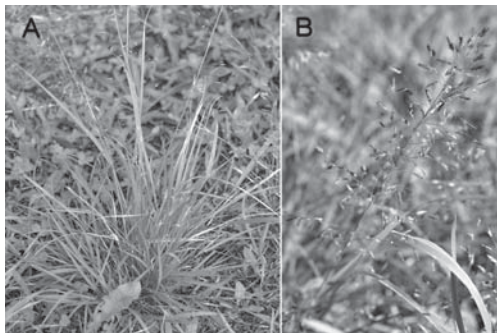


図1 北斗市に生育するカゼクサ  
A: 株全体、B: 穂の拡大。2023年10月1日撮影

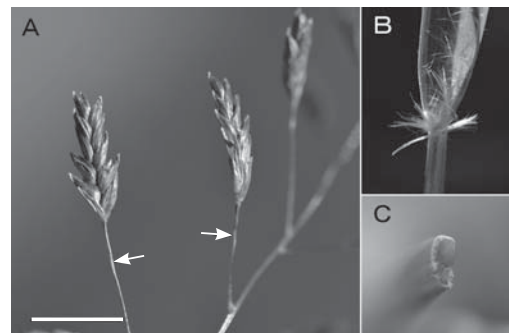


図2 カゼクサの小穂 (A)、葉鞘口部 (B) 及び穂の基部近くの横断面 (C) の拡大。A のスケールバーは 5mm。2023年10月3日撮影